

## まえがき

21世紀の東アジアでは、中国のグローバル大国化を背景に政府間の対立と排外主義的感情が顕著となっている。歴史問題は、今後の東アジア地域政治の安定と共同体創成を語るうえで避けて通れない課題である。

本書は、21世紀の東アジアと歴史問題について、東アジアに通用する「歴史の語り」を構想する思索と対話のために、「政治史」の立ち位置からその条件や素材を提供することを目的とし、「第Ⅰ篇 20世紀中国政治の軌跡」「第Ⅱ篇 アジアを『想像』する」「第Ⅲ篇 韓国・台湾・中国の歴史認識」の3部構成とした。グローバル大国・中国の出現による21世紀東アジアの構造変動を基調として、その内実を通時的・共時的に再構成するとともに、東アジアを構成する4地域（日本と中国・台湾・韓国、東亜四地）の関係性を照射したいと考えたからである。

各篇所収の文章の最初にリード文をおき、筆者が東アジアに通用する「歴史の語り」のためにどのような（あるいはどのように）思索と対話に読者を誘おうとするのかを述べた。本書を最初から順番に読む必要はない。「総論」のあと、リード文に沿って興味のある章から順に読み進んでほしい。本書が、それぞれの立ち位置や関心に沿いながら有意な処方を紡ぐ気づきとなればと思う。

2017年2月

編者